

## 日本気象学会夏期特別セミナー（第3回夏の学校）の報告

### 第3回夏の学校実行委員会\*・講演企画委員会

「日本気象学会夏期特別セミナー(第3回夏の学校)」を、1992年8月3日(月)から5日(水)まで二泊三日の日程で、宮城県栗原郡栗駒町の栗駒山麓にある「いこいの村栗駒」にて開催した。以下にその概略を報告する。

#### 1. 経過

昨年京都にて開催された第2回夏の学校において、東北大学理学部を第3回夏の学校の幹事として選出した。これを受けて東北大学理学部超高層物理学施設及び気象学講座では昨年12月より実行委員会を組織し準備を進めた。会場として「憩いの村栗駒」が適当であると判断し、日程を8月3日(月)から5日(水)までの3日間と決定した。その後「天気」5月号に第3回夏の学校開催のお知らせを掲載し、参加者を募ったところ北海道から九州まで64名もの多数の参加申込があった。また招待講演者として東北大学理学部大気海洋変動観測研究センターの田中正之教授にお願いしたところ快くお引受け下さった。

#### 2. 日程及び講演

8月3日午後から夏の学校の受付を開始し、夕刻までに開校式と簡単な研究室及び自己紹介を行った。夕食に引き続いて懇親会を開き大いに盛り上がった。

2日目は田中正之教授の招待講演、『地球温暖化現象への対応—今どのような研究が求められているか—』

から始まった。大気中の温室効果気体の増加の現状とそれに対する各国の取り組みについて豊富な最新の資料をもとにわかりやすく話されて、参加者一同興味深く拝聴した。残念なことに時間が不足して後半に話されるはずだった地球温暖化への今後の対応については十分に伺うことができなかった。これについては実行委員会の配慮不足として反省している。

そのほか3日目の午前までに以下の4件の一般講演を各1時間で行った。

1. 『レーダーアメダス合成図による TRMM サンプリングエラーの検討』  
沖 理子(東大・気候システム)
2. 『対流圏光化学の地球環境への影響』  
中山里美(北大・工)
3. 『中国砂漠地帯での境界層観測—何をどう測っているのか—』  
玉川一郎(京大・防災研)
4. 『黒丸地区(福岡)における冷気流の特徴について』  
森 牧人(九大・農)

各講演についての詳細な内容紹介はここでは割愛するが、それぞれ特徴ある話題について明解な説明がなされたので、気象学の異なる分野への知見を広めるのに大いに役立った。特に今回は東大、京大などの常連に加えて北大及び九大からの参加者が講演をお引受け下さったことは、気象学会の若手の輪を広げるという意味においても大いに意義があった。講演をされた皆様に改めてこの場を借りてお礼を申し上げたい。

今回新たな試みとして2日目の午後に3時間の自由時間を取った。この時間は参加者各自が文字通り自由に使える時間で、興味のある気象学の問題について討論したり、あるいはテニスやゲームに興じたりそれぞれ有意義に使用されたと思う。

2日目の夜も懇親会で遅くまで盛り上がり交流を深めた。いつでも入れる温泉が好評だった。

3日目の講演終了後に反省会を行い、次回の幹事として筑波大を選出した。記念撮影の後、正午前に解散した。また午後からは有志によって栗駒山登山を実施した。

3日間を通してセミナーを行うには絶好の気象条件であったことを付け加えておく。

最後になりましたが、今回の夏の学校の趣旨に賛同し補助金を出していただいた気象学会講演企画委員会及び東北支部に感謝致します。

\* 田口 真, 渡辺 力, 松島 大(東北大学理学部)  
桑形恒男(農林水産省東北農業試験場)